

一般 質問

令和6年 12月定例会

観光宿泊施設再編は疑問

安部 誠也 議員



Q ホテル建設見直せ

観光宿泊施設の再編に関わる住民説明会が町内2会場で開催された。赤名会場では旧赤来町・赤名がダメになると、26人全員反対だったと聞いている。

町民からは「観光施設と地域交流施設の違いを執行部が理解していない。衣掛荘は昭和天皇・皇后両陛下が全国植樹祭の折、立ち寄られた地域の誇りで愛された施設。単なる観光施設ではない。地域に必要な宿泊施設だ。地域の拠点としての役割は大きい」と聞いた。

新たな宿泊施設の懸念は、気候と財源だ。気象状況からして、スキー場はいつまで持つかわからない。将来的な地方財政を考えた上でも、多額な投資をしても回収はとも無理。スキー場と新設するホテルの継続は不可能と考える。

概算工事費11億円など巨額の投資で100人以上宿泊する施設だが、空き室が増



憩いの郷 衣掛

えれば赤字が続く、指定管理料が上がる。町が進めるコンパクトシティを目指す意味でも、施設が点在することは避けるべきである。

町民に目を向け、住民の声を十分に聞くべき。一時のスキー客目当てではなく、今ある建物を有効に使うべきだ。

今後は、特別養護老人ホームの新設など、事業が山積みだ。町民のためよりも町外から来る人のためにお金を使うなんて考えられない。

A 総合的に判断

町長塚原隆昭

稼働率の低い宿泊機能を集約する。老朽化が進んだ「琴引ビレッジ山荘」は解体し、周辺にレストラン機能を有し宴会もできる「新たな宿泊施設」を建設する案を示した。

赤来会場では「憩いの郷衣掛」の機能縮小に多くの反対意見が出たことも承知しているが、事前に内部で十分に協議を重ね、私の考えも反映された形で提案した。



琴引ビレッジ山荘

そのほか、広島広域都市圏と広島への戦略について質問がありました。

自然にはもちろん勝てない。判断するときも出てこようと思うが、今のところは国民スポーツ大会に向けて環境整備し、今後も継続という方針は変わらない。

施設建設の財源の確保はもちろんだが、既存の施設の改修や更新など維持管理にかかる多額の費用も十分に勘案し、議会や住民の意見にしっかりと耳を傾け、総合的に判断したい。

水道水の安全はどうか

内藤 眞一 議員



Q PFASの調査結果と今後の対応は

水道水へのPFAS（フッ素化合物）混入の調査結果はどうだったか。

調査・検査にはそれなりの費用も必要だが、町民の安全のため、指示があれば遅滞なく検査し結果を公表してもらいたい。今後の町の取り組みについて伺う。



杉戸浄水場

A 安心安全確認できた

町長塚原隆昭

有機フッ素化合物PFASの水道水調査を9月から11月にかけて、町内14か所全ての浄水場の原水を検査した。

全ての浄水場において、国が示している暫定目標値を大きく下回り、安心安全な水道水であることが確認できた。この結果は、毎月実施している水質検査結果とともに、町のホームページで公表した。

PFASは自然界から混入する物質ではないことから、新たな工場の設置等の環境変化がなければ検査はない。

毎月実施している通常の水質検査により、引き続き結果の公表を行いながら、安心して利用できる水道水の供給に努めたい。

Q 町民の声に耳を傾けて

「観光宿泊施設」「小学校のあり方」「道の駅頼原周辺整備」等、地域住民に十分説明せず尻に火がついてからの説明で、それまで何の説明もなく提示したのでは、住民の怒りは当然だ。

議員は、住民の皆様説明できるほどの情報をいつも聞いているわけではないから、予定段階の話を住民に話すことはできない。

もつと町民に目を向け、町民の意見に耳を傾けるように改善すべきと思うがどうか。

A これまでと同様に

町長塚原隆昭

町民全体への説明は、まずは、町民の代表である議会に説明し、その中でいただいた意見も踏まえ、ある程度方向性が定まった時点で住民説明会を開催している。

職員は町民の皆様や事業



住民説明会(赤名会場)

者の方の声を聴いて情報収集し、よりよい形となるようアイデアを出し合って事業を進めていると認識しており、決して町民目線ではないとは思ってない。

これまで同様に町民との対話を大切にし、よりよい事業となるよう事務執行に努める。